

日本大学芸術学部



校友会報

平成23年5月発行
2011年春季号

86

C O N T E N T S

第5回日藝賞決定	3	長野江古田会 5 周年記念	11
平成 23 年度総会のご案内	4	岩手江古田会総会開催	12
キャンパス整備記念ギャラリー開設 !!	4	熊本江古田会 25 周年記念	12
皆さん今日は！	5	学部ニュース	13
日本大学校門会館の予約の方法	9	学科ニュース	13
アートフェスティバル・北海道	10	編集後記	19

謹んで地震災害の
お見舞いを申し上げます。

東日本大震災で被災された皆様に、心から
お見舞い申し上げます。被災地の一日も
早い復興をお祈り申し上げます。

第5回日藝賞決定

毎年活躍した校友二名を表彰し賞金とトロフィーを授与する「日藝賞」の第5回受賞者が決定し、4月8日の入学歓迎式において授賞式が行われました。

林 真理子

【Mariko Hayashi】

最終学歴
日本大学芸術学部文芸学科
(昭和50年度卒業)

現 職
小説家

<著書>

ルンルンを買ってうちに帰ろう (1982年)
星影のステラ (1985年)
最終便に間に合えば (1985年)
ミカドの淑女 (1990年)
白蓮れんれん (1994年)
素晴らしき家族旅行 (1994年)
女工士 (1995年)
幸福御礼 (1996年)
不機嫌な果実 (1996年)
着物をめぐる物語 (1997年)
みんなの秘密 (1997年)
死ぬほど好き (2000年)
花探し (2000年)
ミスキャスト (2000年)
初夜 (2002年)
花 (2002年)
20代に読みたい名作 (2002年)
聖家族のランチ (2002年)
年下の女友だち (2003年)
anego (2003年)
ミルク (2004年)
野ばら (2004年)
知りたがりやの猫 (2004年)
アッコちゃんの時代 (2005年)
ウーマンズ・アイランド (2006年)
秋の森の奇跡 (2006年)
グラビアの夜 (2007年)
「綺麗なん」と言われるようになったのは、四十歳を過ぎてからでした (2007年)
RURIKO (2008年)
生き方名言新書 1 林真理子 (2008年)
もっと塩味を！ (2008年)
美は惜しみなく奪う (2009年)
私のこと、好きだった？ (2009年)
下流の宴 (2010年)
いいんだか悪いんだか (2010年)
六条御息所 源氏たり (2010年)
本朝金瓶梅 西国漫遊篇 (2010年)
秘密のスイーツ (2010年)
ほか多数

<受賞>

第94回直木賞受賞 (最終便に間に合えば／京都まで) (1986年)
第8回柴田鎮三郎賞受賞 (白蓮れんれん) (1995年)
第32回吉川英治文学賞受賞 (みんなの秘密) (1998年)
レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ受賞 (2011年)

<その他>

直木賞、講談社エッセイ賞、吉川英治文学賞、中央公論文芸賞、毎日出版文化賞等の各選考委員



青山 剛昌

【Gōshō Aoyama】

最終学歴
日本大学芸術学部美術学科
(昭和60年度卒業)

現 職
漫画家

<コミックス>

まじっく快斗 (1988年～) - 4巻 (2011年現在・不定期連載中)
YAIBA (1989年～1994年) - 全24巻
青山剛昌短編集 - 全1巻
4番サード
探偵ジョージのミニミニ大作戦
ちよっとまってて
プレイ イット アゲイン (YAIBAの原型)
えくすかりばあ (4番サードの原型)
夏のサンタクロース
サンデー19show さまよえる赤い蝶 (ショートショート作品)
さりげなくルパン (まじっく快斗のモデル)
名探偵コナン (1994年～) - 71巻 (2011年5月現在・連載中)
4番サード - 全1巻
YAIBA 新装版 - 全24巻

<映像化作品>

【TVアニメ】

剣勇伝説YAIBA (1993年～1994年)
名探偵コナン (1996年～)

【名探偵コナン・劇場版】

第1作 時計じかけの摩天楼 (1997年)
第2作 14番目の標的 (1998年)
第3作 世紀末の魔術師 (1999年)
第4作 瞳の中の暗殺者 (2000年)
第5作 天国へのカウントダウン (2001年)
第6作 ベイカー街の亡霊 (2002年)
第7作 迷宮の十字路 (2003年)
第8作 銀翼の奇術師 (2004年)
第9作 水平線上の陰謀 (2005年)
第10作 探偵たちの鎮魂歌 (2006年)
第11作 紺碧の棺 (2007年)
第12作 戦慄の楽譜 (2008年)
第13作 漆黒の追跡者 (2009年)
第14作 天空の難破船 (2010年)
第15作 沈黙の15分 (2011年)

<受賞>

第19回小学館新人コミック大賞入選 (ちよっとまってて) (1986年)
第38回小学館漫画賞 (児童部門) 受賞 (YAIBA) (1993年)
第46回小学館漫画賞 (少年部門) 受賞 (名探偵コナン) (2001年)

※その他に「名探偵コナン」の小説版、テレビドラマ版、ゲーム等多数



平成23年度 総会のご案内

日 時：2011.7.16（土） 17：00より

会 場：日本大学芸術学部内（当日、正門にてご案内致します）

- 議題 1. 会務報告 2. 会計報告 3. 予算審議
4. 推薦校友 5. 役員選出 6. その他

総会終了後、ただちに懇親会に移ります。

会費	喜寿を越えられた卒業生	ご招待
	平成16年度以後の卒業生	3,000円
	それ以外の卒業生	5,000円

問い合わせ 03-3554-5363 校友会

※同封しました総会の出欠のはがきをお送りください。

キャンパス整備記念ギャラリー開設！！

西棟 1 階入口左側にキャンパス整備記念ギャラリーができました。
寄付をしていただいた皆様のお名前が、掲載されております。



皆さん今日は！

本年より皆様の仲間入りをします。どうぞよろしく。

●飛田 健裕（写真学科卒）

僕にとって大学生活の四年間は、多くの「経験」をした時間でした。

高校を卒業して全く知り合いのいない新しい環境に飛び込み一から友達をつくり、大切な仲間がたくさんできました。自分で撮影し暗室に入って現像・プリントをして、作品を制作して出来たときの喜びを知った。

アルバイトも三年間続けた。学業との両立の難しさ、接客を通してコミュニケーションを学んだ。

たくさん撮影旅行にも出かけた。夏休みを利用して自転車で出掛けたり、雪国で泊まりこみで撮影したりして、一期一会の出会いをたくさんした。

卒業制作の撮影でインドネシアにも出かけた。先生に行きこいと背中を押していただき、一歩踏み出すことができた。衝撃と感動の連続で新しい世界を見ることが出来た。

まだまだここには書ききれないくらいの「経験」をする事が出来た。それは大学という伸び伸びと勉強ができる環境があったからこそ。本当にありがとうございました。

●山下 美佳（写真学科卒）

日芸で過ごした4年間はあっという間だったのに本当に色濃いモノになりました。得たものはたくさんありますが、やはり友達との思い出と写真観が大きく変わったことが特に印象に残っています。写真を基礎から学び、制作を進めていく内に、ゼミの方針である「アートは問いかけ」という所に行きつき、私の思想も変化しました。



各々の写真観についてお酒を片手に語り合い、終電を逃がしたりなんてのもいい思い出です。

友達とはたくさん笑いました。その証拠に酔っぱらっていい笑顔のみんなの写真がいくらかでも出てきます。本当にみんなで飲むのが好きだね、私たちは。お酒がよく似合っているよ。

そんな私たちも春から社会人です。それぞれが各々の道に進みます。芸術、商業、報道、一般。様々な道はあるけれども、いずれみんなの名が世に出てくるようになったらとっても嬉しいです。みんなに負けないように私も切磋琢磨しなければいけません。のんびりなんてしてはいられませんね。そして立派な大人になったとき、またみんなで集まってお酒でも飲みながら大いに語らいましょう。楽しみにしています。

●柏木 浩輔（映画学科卒）

「もう少しだけ時間をください。せめて何か答えが見つかるまでは」

大学は社会に出るまでの猶予期間である。たしか誰かの言葉である。現在を生きる僕たちは、それを“モラトリアム”という言葉で皮肉を込めて正当化し、寄生して四年間を過ごしていく。しかし日本大学芸術学部は、そんな種類の人間とはまた違った種類の者たちの集合地、島宇宙のようなものである。

ここに在籍する学生は、当初は皆何らかの志とプライドを携えてこの島宇宙にやってきた。たとえその想いの層が厚かろうが薄かろうが、必ず自身の中に“表現したい”気持ち、“昇華したい”想いを抱えていたはずだ。そして四年間その想いの集大成を、卒業生は卒業制作で試されることになる。それはその結果で



図られるのではなく、プロセスで悟られるのだ。卒業制作を終え、僕は、まだ自身の目標を諦めることができないでいた。

モラトリアムの延長と言われるのならそれでもいい。だけども僕はこの大学に入学し、過ごしたからこそ、自身の目標が揺るぎないモノだと知ることが出来た。

●矢島 佳奈（映画学科卒）

面接が思ったようにいかず雨のなか泣きながら帰った入試の日からもう4年が経ちました。

当初アニメーションに興味があり入学した私にとっては、自分の知らない映画や映像の話を熱く語る友人達に焦りを感じ、何か独特な雰囲気を持った日芸に気圧され予想外に大変な日々を送っていました。入学から4年が経ち振り返ってみれば、1年生が持っている映画の知識なんてみんな大差なく、日芸独特の雰囲気も慣れてみると心地のいいものでした。

そんな日芸で4年間を過ごし私が最も感じたことは何ごとにも「自分次第」だということです。友達をつくるのも、勉強をするのも、作品をつくるのも、就職をするのも全ては「自分次第」なのです。自分で学び、自分でプラスαのことを吸収しようとする人はもの凄く成長し、そうではない人はそうでもない。その差がはっきりと出る学部だと思います。私はお世辞にも前者の学生だったとは言えないので、社会に出てからは日芸で強く感じた「自分次第」という言葉を自分に言い聞かせて頑張っていきたいと思います。

4年間お世話になりました。



●酒井 みのり（美術学科卒）

私は大学で学ぶとはどういう事なのかを体験を通して知りました。入学するという漠然とした目標を達成するために嫌いな数学や古文とか英語を勉強し毎日毎日受験の為に絵を描きました。そして大学に入ってからしばらくは何をしたらいいのか分からず一所懸命学んでいるふりをして過ごしているうちに、受け身の姿勢では何も学べない事に気づきました。それからは何をすればいいか分からなかったけれど、少しでも気になる事があれば本やインターネットで調べたり知らない所へ足を運んだりしているうちに私の事がだんだんと分かるようになって行きました。学びというのは自ら行動しなければ得られないものだ気づく事ができました。自分の興味がどんな物事に向けられているか意識できるようになると、制作にも方向性が出てきて自然と自分の興味に向かって行くようになりました。それから大学生活では恵まれた事にお互いの興味や意見について話す事が出来る友達がありました。自分と違う物の見方や客観的な意見を聞くのは私一人ではできない事でした。これからも学び続けて自分を追求し視野が広がっていくのを楽しみたいとおもいます。



●長場 龍也（美術学科卒）

大学での4年間は、実に有意義なものでした。学ぶこと、挑戦することに溢れ、常に刺激に満ち、得るものがとても多くありました。そのような時間を過ごせた私を支えてくれたのは、友達であり、先輩であり、後輩であり、先生であり、家族です。彼らの存在がなければ今の私はいません。共に大学



で学び、過ごせたことは、本当に幸せでした。心から感謝しています。日芸の彫刻コースに入学して本当によかったと思います。

また、大事なのはこれからです。せっかく大学で学んできたことを活かさないでは何の意味も無くなってしまいます。今後の自分の生き方や成果を見せていくことがお世話になった人達への恩返しになるのではないかと思います。

私は東京を離れ、新潟の実家で家業を継ぎ、瓦職人としての道を歩み始めます。彫刻コースで学んだこと、友達や先輩、後輩、先生方から教えられたこと、4年間で見てきたことは何だったのかをよく考え、仕事に活かし、発展させていきたいと思います。

最後になりますが、お世話になった方々にもう一度お礼を申し上げたいです。本当にありがとうございました。

●相原 結（音楽学科卒）

「お前にとってホルンってなんなの？」入学したての私は先生の質問に答えられなかった。



実力も無ければ経験もない。もちろん自信なんて皆無。ホルンを仕事にした！なんて、口が裂けても言えなかった。毎日必死に練習してたけど、先輩も同期もみんな上手で、私だけ下手くそなんだと、何度も何度もひとりで泣いた。

そんな私はこの4月から陸上自衛隊の音楽隊にホルン吹きとして就職する。こんな未来が待っていたなんて、当時の私は知る由もない。

「音楽で食べていくなんて絶対無理だよ。」と、実力の無さから夢さえ語れなかった私。でも、日芸に来てたくさんの人に出会って、たくさんのお音楽に出会った。そして何かが私の中で変わっていった。

やっぱり音楽がしたい。

頑張ってみよう。やってみよう。

私にとってホルンは、かけがえのない道具になっていた。

「お前は楽器を続けろよ」先生のこの一言が私に進むべき道を決めさせた。【やればできる】そんなシンプルな方程式を、日芸が私に教えてくれたのだ。

日芸音楽学科生の多くがそうであるように、私もまた、音楽をやめられない人になってしまった。

●冨田 未来（音楽学科卒）

「音楽の先生になりたい」という夢を抱き始めたのは、小学5年生頃からでしょうか。それ以来私は、この夢を追うように自身の進路を決定してきました。



志望大学を考える際、音楽を専門的に学ぶことの必要性和共に、音楽だけの環境では教師としての人格形成に偏りが出る、という悩みもありました。そこで、他の芸術や分野を学ぶ人達から刺激を受けることが出来る、日芸ならではの環境と特色ある授業に魅力を感じ、入学を希望しました。

私は音楽教育コースで、音楽の治療的意義を理解した教師になるための知識や経験として、音楽療法についても学びました。印象に残っている授業は音楽療法の実習で、高齢者施設や障害者施設へ出かけ、定期的に音楽と触れ合う時間を提供したり、発達障害などの子ども達への音楽療法に関わったり出来たことです。

2つを学ぶのは非常に大変でしたが、無事、教員採用試験にも合格し、音楽療法士補の資格も取得出来ました。4年間忙しい毎日でしたが、充実した日々を送ることが出来ました。ここまで私を育てて下さった多くの先生方、友人、そして日芸に、心から感謝しています。

●有迫 治恵（文芸学科卒）

入学前は将来の夢もこれといって無く、高校では落ちこぼれていた



ので大学でも同じようになるかもしれない、それでもいいやと思っていた。やる気はなかった。だが入学してすぐに、授業でInDesignに触れて、文章や写真を印刷できるように編集していくことの楽しさを知った。ソフトに慣れたくて授業以外の時間も出版編集室に通った。所沢校舎に居た二年間、空いていた時間の殆どは出版編集室に居たと思う。

そんな感じだったから、三年からのゼミはブックデザインや出版プロデュースを手がける原孝夫先生のゼミに入った。新学年が始まってすぐに原先生はご病気で入院なさっていたが、ゼミ授業はスカイプで行われた。三年の七月に原先生は亡くなってしまったけれど、お話していただいたことはとても印象に残っている。また、教職課程も頑張った。教育実習で母校で授業をさせていただいて、かつて自分が生徒だった時に先生方を見ていた視点と、いま教育実習生として生徒を見る視点の両方を経験できたことはとても有意義だった。この経験のおかげ、就職の際に冷静に自分の態度を振り返ることができるようになったと思う。

こんな感じで大学四年間が終わろうとしている。ぼんやりと過ごしていた中学、高校時代よりも密な時期だった。これから社会に出ても、大学時代以上に意欲的に生きていこうと思う。

四年間お世話になりました。

●副田 康平（文芸学科卒）

僕は在学中に文芸学科実行委員会に所属していた。実は聞いてみると多くの人がこの委員会の存在を知らずに日々を過ごしている。僕と関わることが



あった人は多いようで少ない。にもかかわらず委員会の活動は忙しかった。その委員会では毎年少人数しかおらず、僕が入会した時には三年生の先輩が一人しか在籍していなかった。

先輩は僕にあまり口を出さなかったの

で、自分で考えて仕事をした。自分の行ったことがそのまま結果となってかえってきた。

先輩が四年生になると引退して、二年生の僕は一人で仕事をこなすことになった。そこで関わるようになった人達には大変お世話になり、学校生活の様々な面でも助けてもらった。

三年になっても後輩は入らなかった。変わらず忙しい日々を過ごした。四年になり、後輩も入った。先輩よりは少し遅い引退となったが、いくつかの言葉を後輩に託して僕も引退した。そこでの活動が就職活動で大きな助けとなり、あっさり

●加納 達也（演劇学科卒）

と内定をもらうことが出来た。

二年間と少しの間、自分一人で様々な責任を背負うことで大きく成長することが出来た。他のサークルにもいくつか所属した。趣味にも興じ、忙しく働いた。執筆はあまりしなかったが、ある意味日芸生らしい学校生活だったと思う。



「仲間と一つの作品を作り上げる素晴らしさ」を知る事もできました。演劇という大きなコミュニティーの中で、大勢の人達と密な時間を過ごす事で、人として、言葉では言い表せない大切なものを得る事が出来たと実感しています。そしてこれからは、今まで私を支えてくれた助手という立場に自分が立ち、学生達をサポートし、私が学び得たことを少しでも彼らに伝えていければと考えています。卒業時、私と同じように「日芸に入って良かった」と思えるような学生生活を彼らが送れるように、私もこれからの日芸生活を頑張ります！

●八木 茜（演劇学科卒）

幼い頃に歌舞伎を観て以来、私の夢は「黒衣になる」ことでした。そのうちこれが「ミュージカルに関わりたい」という思いに変わりはしたものの、演劇のスタッフ以外に憧れた存在はありませんでした。



そして、演劇のことを学ぶために日芸に入りました。入ってからの4年間はあつと言う間に過ぎていったように思います。入学当初は戸惑うことが沢山あり、このままここでやって行けるのかと不安になった時もありました。しかし、素晴らしい先生方やかけがえのない仲間に出会うことが出来、今は日芸に入って良かったと思っています。

2・3年生の舞台総合実習から卒業制作まで3年間関わった日本舞踊のカンパニーでは、特に沢山のことを学びました。自力で動き出すことの重要性、話し合うことの意味、カンパニーのメンバーとしての距離の取り方、そして仲間の大切さなど。ここで学んだからこそ、今の私があると

と言っても過言ではありません。

日舞も含め、どの公演においても、尊敬出来る刺激し合える仲間がいたからこそやってこれました。これからも、そん

な仲間達に負けないよう頑張っていきたいです。

●荻谷 綾美 (放送学科卒)

芸術学部という特殊な環境に身を置いて4年…本当にあったという間でした。実は、1年の頃旧友に「芸術学部って何するの?」と聞かれても、曖昧に返答する事しかできませんでした。自分は日芸で一体何をやるのか…いくら考えても想像がつかず、頑張って1限に行く事だけを考えていました。



そんなふわとした日芸ライフに重石を乗せてくれたのが、専攻との出会いでした。オープンキャンパスで一目惚れをし、憧れた世界を目にした瞬間、感動と不安が一気に押し寄せてきました。恐る恐る足を踏み入れれば、そこは底なし沼のようで、目が覚めたかのように欲深になり、気が付けば何かを残そうと必死にもがいていました。後悔だけはしなかったで、今までに無いくらい自分や仲間と向き合い、常に限界を目指して頑張りました。そんな日々を過ごしていたら、いつのまにか卒業間近…しかし、手元にはたくさんの痕跡がしっかりと残り、今では自分が何をしてきたかを語りつくせない程です。日芸で過ごした日々は、一生忘れられない私の財産です。この環境を与えてくれた全ての方に感謝し、今後も私らしく頑張っていきたいと思っています。ありがとうございました!

●後藤 祐一郎 (放送学科卒)

4年間の大学生活を終えて、改めて学校に行くことが当たり前になっていたなと感じました。大学には授業以外でも、課外活動やサークル活動で毎日の様に訪れていたのが本当に寂しい気持ちで一杯です。そのような大学生活の中



で放送学科はロケや収録がある分、友人たちと一緒に活動することが多かったと思います。彼らは皆それぞれの考えを持っていて、それは全て独特。一人たりとも自分の意見を持っていない人はいませんでした。「日芸」という場所は皆がそれぞれ自分の個性を思う存分発揮している場所です。自分自身もその流れに乗り自分を表現できたこと、これはとても大切な経験だったと思います。大学とは社会に出る前の最後のステップだと思います。大学で学んだことは、すぐにその後の人生に影響が出ると言えると思います。私はそこで自分を表現する事の素晴らしさと楽しさを学びました。その過程で携わった数多くの授業の職員の方は、その多くが卒業生でした。私も彼らに習い、いつかきっと大学に恩返しが出来れば良いと思っています。

●長谷川 香織 (デザイン学科卒)

所沢校舎がすきだ。天気の良い日は、木影にあるベンチに座って本を読んだり、人と話したり、猫と遊んだりした。開放感のある校舎の中で、たくさんの人が顔を合わせて挨拶を交わした。制作が始まると朝から晩までアトリエに居た。「ああじゃない、こうじゃない」とつくっては悩み、またつくり、終バスに駆け込む日々を送った。



そのような毎日の中で「気づき」がぽつぽつと生まれてくる。当時の私のもののつくり方は、一定の方向性しかなかった。頭に思い描くかたちを手探りでグラフィックやプロダクトといった媒体に落とし込んでいく。この一定の方向を相互関係に変えつくるプロセスや思考を拡張したいと思った。世の中に既にある媒体という位置に収めて安心するのではなく、相応しいかたちを見つけてつくる。そこは喜びと苦しみが常に一緒にある。卒業制作を終え、デザインがもつ幅や奥

まりが澄み渡っていく様を一部見る事ができた。それ故に生まれる葛藤もあるが、うずうずしたり、ドキドキしながらずっとものづくりをしていきたい。

●藤ヶ谷 友輔 (デザイン学科卒)

どんな人も楽しい事には目一杯時間や力を注げると思う。大学でデザインを学び、その勉強が私の“楽しい事”になった。デザインに必要な技術、知識を学び少しずつデザイナーに近づいていくような気がして、毎日が非常に楽しかった。初めて勉強が楽しかったし、食欲に知識を欲したと思う。志の高い仲間や、圧倒的なセンスと実力の先輩に囲まれ著しく成長した四年間であった。



プロダクトデザイナーは製品デザインを通して人々の生活に便利さや喜びをもたらすアイデア力が必要な職業。私の周りの友人は皆アイデア力が高いだけに、やはり皆おもしろい。おもしろい友人に囲まれての勉強は楽しさ倍増である。もちろん四年間とても忙しく大変であった。しかし、日芸は全学科専門職なだけに周りの人々はどこか特殊だし魅力的な学友ばかりだ、私も負けてはいられない。そんな楽しく学べ、ちょうど良い危機感の中、学ぶ事のできる良い環境の大学であった。卒業し、念願のプロダクトデザイナーになる訳だが、これからも延々勉強である。社会で学べる事がとても楽しみだ。

プロダクトデザインの魅力、学ぶ事の楽しさを気付かせてくれた大学と先生方、友人、先輩に感謝致します。



日本大学桜門会館の予約の方法

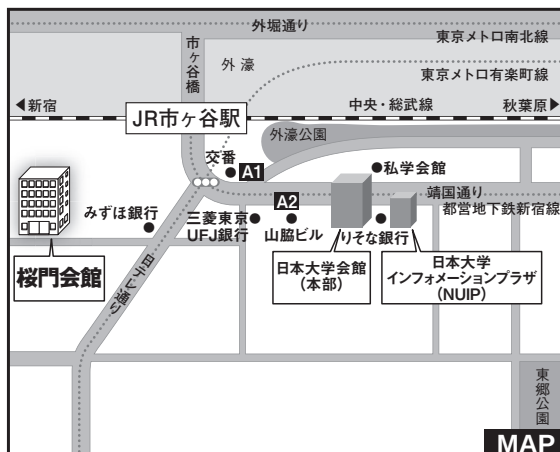
平成22年6月30日に竣工された桜門会館は、敷地面積796.29㎡、延床面積1,735.6㎡、鉄筋コンクリート造、地上4階建の建物です。場所はJR市ヶ谷駅から徒歩1分です。

1階は校友同士の自由な情報交換の場として利用できるラウンジとなっており、少人数での立食パーティーも可能です。

2階は校友会本部事務局の事務室。3階は会議室となっており、20名から150名程度までの会議に対応できます。4階は最大で200名が収容可能な宴会場です。

3階及び4階の利用は校友会正会員のみとなっており、使用団体及び用途によって予約方法と維持費額が異なります。詳細は校友会本部事務局にご確認ください。予約方法は以下のとおりです。

●校友会本部事務局 庶務課 03-5275-8280



予約方法

芸術学部校友会を通じて申し込む方法

- 1 校友会本部事務局にて仮予約（電話可）
- 2 芸術学部校友会に使用申込書を提出
- 3 部会長名をもって校友会本部事務局に使用申込書を提出
- 4 校友会本部事務局にて使用の諾否を決定の上、許可書と維持費請求書を送付

会議室等の使用料

	使用区分	9:30～13:00	13:00～17:00	17:00～21:30
四階	桜ホール	10,000円	10,000円	10,000円
	会議室A	5,000円	5,000円	5,000円
	会議室B	5,000円	5,000円	5,000円
三階	大会議室	10,000円	10,000円	10,000円
	301・302	各2,000円	各2,000円	各2,000円
	303・304	各3,000円	各3,000円	各3,000円
一階	ラウンジ	10,000円	10,000円	10,000円

※上記使用料に附帯設備機器使用料を含む

校友会本部事務局に直接申し込む方法

- 1 校友会本部事務局にて仮予約（電話可）
- 2 校友会本部事務局に使用申込書を提出
- 3 校友会本部事務局にて使用の諾否を決定の上、許可書と維持費請求書を送付

会議室等の使用料

	使用区分	9:30～12:00	13:00～17:00	時間外(1時間)
四階	桜ホール	90,000円	135,000円	(継続) 15,000円 (新規) 45,000円
	会議室A	45,000円	70,000円	(継続) 8,000円 (新規) 25,000円
	会議室B	45,000円	70,000円	(継続) 8,000円 (新規) 25,000円
三階	大会議室	90,000円	135,000円	(継続) 15,000円 (新規) 45,000円
	301・302	各23,000円	各30,000円	(継続) 8,000円 (新規) 15,000円
	303・304	各30,000円	各38,000円	(継続) 10,000円 (新規) 25,000円
一階	ラウンジ	90,000円	135,000円	(継続) 15,000円 (新規) 45,000円

※上記使用料に附帯設備機器使用料を含む

〔経緯と準備〕 北海道江古田会が15周年を迎えることとなったこの年に母校日大芸術学部の新校舎が完成しました。この機会に会員の方を結集し手作りのイベントを開催してはどうかとの機運が高まりました、また、新しい校舎で頑張る日芸を応援する機会になればとの思いも強くなり、平成21年12月仮称6人会（蓬田会長・青木副会長・荒谷副会長・中山幹事長・氏家副幹事長・暮目事務局長）が集り、実行委員会の組織図・業務内容・準備日程等を協議し原案を作成、平成22年1月の役員会にて提案し大綱が了承され準備に入りました。予算については当初75万とし、内容は展示（美術・写真・演劇・文芸・デザイン）、ステージ発表（音楽・演劇・放送）さらに芸術学部の資料展示と進学相談会、またご共催頂けることとなった札幌日本大学中学校・高等学校の進学相談コーナーを設置することでした。写真の作品は市内を中心に、美術の作品は道内外、故人の作品の参加もあり多くの充実した作品が集まりました。ステージ発表は音楽学科による演奏や放送学科や文芸学科によるトークショーを中心にプログラムが組まれ、準備段階で苦労した会場の選定は大野副会長の助言により安価でJRタワープラニスホールを借りることができました。その後6人会を中心に協賛広告や資金集め、会場設営や人員配置、展示方法やパンフレットの原稿集め等、ススキノのそば処（まる山）での会合が増えていきました。中学への広報は日大高校の広報活動に便乗させていただきチラシやポスターを配布、高等

学校には会長が中心となり市内を中心に36校の進路指導部を訪問チラシ配布や宣伝活動を行ないました。前日の会場設営はできるだけ経費を節減するため自分達で実施。大野副会長・原幹事を中心に全員の幹事や一部の出展者とアルバイト学生でほぼ予定時間で終了でき、なにより皆で力を合わせることの大切さを痛感しました。

〔開催状況〕9月25日～26日 開会宣言の後トロンボーン4重奏によるファンファーレが奏され一気に雰囲気が高まりました。忙しい中を駆けつけてくれた野田芸術学部長・札幌日大学園浅利理事長の両先生に心より感謝します。中山氏のトロンボーン・竹形氏のギター・蓬田氏のイタリアオペラ等の演奏が続き、STVの牧氏・森中氏のトークショーでは多くのファンが色紙にサインをもらっていました。山上氏・神崎氏のトークショーはこれから放送界を目指す若い人達の力になったと思います。1日目の特筆は札幌短編映画祭の運営に努力している久保氏が実際の入賞作品を見せながら解説してくれたこと、今後の活動が楽しみです。展示の美術作品・写真作品は充実したものが多く見ごたえがありました。2日目は浜坂氏のトランペット演奏を青木氏の伴奏で楽しみました。この日の特筆すべきはバンドネオンの小川氏、前々日にアルゼンチンからの帰国という時差にもめげずバンドネオンの魅力を伝えてくれました。2日間を通して繋ぎの時間帯には芸術学部の紹介や札幌日大高校のDVDが常時流され関心を高めました。この日は綾部校友会会長も駆けつけて下さり閉

めのお言葉をいただきました。ありがとうございました。2日間での入場者数は約700名。充実したステージプログラムとレベルの高い展示が評判でした。たくさんのパネルが並ぶ進学コーナーにも受験相談の生徒が熱心に話を聞いていました。

〔反省と課題〕 今回のフェスティバルは北海道江古田会として初めての取り組みのため見えないこと、想像できないことが多々ありました。一番悔しい思いは入場者を最低千名は確保するという目標が達成できなかったことでした。これには三つの原因があります。一つは会場が11階にありエレベーターでしか会場に入れなかったのにその対策を考える余裕がなかった事です。二つ目は広報を個人に任せ会員全員で連携して動けなかったことです。例えば私学には出身者が行って宣伝するとか、会員は一人2～3名を集め、出展者や出演者は10名は確保するとかの活動です。三つ目はマスコミ・メディア関係にたいする働きかけが稀薄だったことでした。このあたりは日芸は強いはずなのですが。これは会長の目配りがたりなかったことと反省しています。受験相談も20名程度の生徒を何とか集めようと考えていましたが15名程ともう一步足りませんでした。

しかし多くの成果もありました。学校訪問で各学校の日芸に対する認知度が高いこと、ある中堅校では成績優秀な生徒が芸術学部に合格し学校挙げて喜んだことや日芸にこんな立派な校友会があるのを知らなかったが今後生徒の受験の事でなにかあったら相談したいな

ど嬉しい話もありました。またこのイベントを通して、先輩や後輩などの新たな出会いができたことでした。この会にとって大きな財産となりました。また他学部の応援をいた

だいた事も大きな力でした。法学部の羽深さんは二日間受付に通ってくれました。最後の後片付けは参加者全員に東京から来られた三人の先生方まで加わっていただきなんと一時

間で終了しました。手作りアートフェスタの真骨頂でした。ご協力に感謝します。みなさん本当にありがとうございました。



長野江古田会 5 周年記念

10月9日 於：中条

長野江古田会 5 周年記念「アート・フェス開催」平成 22 年度は、長野江古田会発足 5 周年を迎えるに当り記念事業の開催を計画、地方から「日芸らしさ」を生かしたアートを発信したく、10 月 9 日、平成 22 年 1 月元旦に長野市に合併した旧中条村の音楽堂を会場に「日芸アートフェスティバル in 中条」を開催、会員で長野市のピアニスト中川真由美さんのピアノコンサート、松本市在住のひとり人形劇「がらくた座」木島知草さんの人形劇の公演、長野市出身でホームレスの男性を描いた作品で映文連賞受賞監督宮島良季さんの作

品上映、トークショー、長野市の写真家林安直さんの「信州のかやぶき民家」の写真展、地元伝統の中条虫倉太鼓保存会の特別演奏もあり、200 名余の来場者で過疎地域の活性化につながる日芸らしい地方からの質の高いアートの発信が出来たと確信をいたしました。信州名物地元の「おやき」の販売も好評で追加オーダーも完売でした。

公演終了後、地元保養施設「やきもち家」で平成 22 年度、長野江古田会総会を開催、ご来賓の野田学部長、綾部校友会々長様のごあいさつを頂き、総会の議事終了後、名物の

おやきを味わいながらアートフェスの反省会とし、今回のイベントの企画から実施まで 10 回余の準備会合を重ね、若い現役会員の手弁当の協力で実現した事業、やり甲斐があった満足感にみんなでひたる事が出来、喜びをわかち合い、又、今後の長野江古田会の発展、事業計画など多様にわたり話し合い、明るい道が開けて来たと会員共々実感し、和気あいあいのうちに再会を約しお開きとなりました。忙しい中、参加協力してくれた会員諸君本当にありがとう、感謝です。

支部長兼会長 酒井喜仁(演 32 年卒)



岩手江古田会総会開催

10月16日(土) 於：新亀屋

岩手江古田会は、平成22年度の総会と懇親会を10月16日開催いたしました。

今回は久しぶりに盛岡をはなれ、花巻市石鳥谷町に所在する懷石料理の新亀家が会場となりました。

ご来賓に芸術学部より、野田慶人学部長と綾部東洋子校友会会長をお迎えし、総会では平成22年度の会計報告と活動報告をそして次年度の予算計画(案)と活動計画(案)が



提案され、いずれも全会一致で承認されました。

本年度の活動では、当支部副会長山崎文子氏の青森江古田会への出席や理事高橋比奈子氏の本部総会への出席、江古田校舎完成に伴うホームカミングデーへの山崎氏、高橋氏の参加等が報告されました。

懇親会の始めには、四條流門人の名匠師範である新亀家ご主人加藤綱憲氏による、見事な庖丁さばきによる儀式をご披露頂き、出席者の皆様からは感嘆の声が上がっておりました。

待望の芸術学部新校舎の落成は、今回大きな関心を集めて、懇親会でも皆様の話題の中心となっております。

芸術学部と江古田の街への想い出

や愛着も更に深くなったようです。二次会は会場を盛岡市内に移動して、日本大学校友会岩手支部の元持勝利支部長にもご出席頂いて、なごやかなうちに時間は過ぎてゆきました。

まだ6回の総会と歴史の浅い岩手江古田会ですが、各地の先輩江古田会の皆様との交流やご指導を通して、活動を充実させてゆきたいと存じます。今後とも何卒宜しく願いを申し上げます。

岩手江古田会 事務局 上田輝仁



熊本江古田会 25 周年記念

11月5日 於：熊本ホテルキャッスル
12月8～14日 於：熊本市アーツスペース大宝堂

熊本江古田会は1985年に発足して、去年2010年に25周年迎えました。5年前には佐賀出身で同窓の報道写真家、故一ノ瀬泰造氏のベトナム戦争やカンボジアでの写真をお母様からお借りして、戦争をテーマにした企画展を開き好評を得ました。

今回の25周年記念展は熊本城をテーマに開きました。熊本には、世界でも最古の写真館ともいわれている、富重写真所があります。この写真所を始めた富重利平氏が明治10年(1877年)の西南戦争前に撮影した熊本城(焼失前)の写真について、当時の撮影データを検証するため、写真学科の原教授、高橋教授の一行が2008、2009年に熊本城で明治期の写真が撮られた場所から大判のカメラで撮影しました。このよう

なこともあって、今回の企画展は明治の富重利平氏の写真と平成の写真学科撮影の作品をメインに、「明治が甦る作品も」～それぞれの熊本城物語～として、熊本市内のギャラリーで開きました。期間は去年の12月8日から6日間で、写真学科出身者は熊本城やそれぞれお気に入りの作品を、美術学科の会員は絵画を、音楽学科の会員は会場のBGMも兼ねてピアノの曲に合わせたビデオ映像をつくり、会場で上映しました。来場者は300人ほどで、熊本城に対するそれぞれの視点や明治期と現代の天守閣の比較など、熱心に、ご覧になる人も多くみられました。

また今回は熊本県北部にある山鹿市の八千代座という芝居小屋で歌舞伎の坂東玉三郎氏の公演に演劇学科

に在籍した中村獅童氏が共演することがわかり、演劇学科出身の若手の努力で去年11月5日、熊本市内のホテルでトーク&ディナーショーを25周年記念として実施しました。定員120人、会費1万円で、ほぼ満席でした。会場では獅童氏が歌舞伎の「見得」の切り方など説明されるなど、会場はなごやかな雰囲気にも包まれていました。この会には来賓として獅童氏の恩師、演劇学科の原一平教授も顔を見せられて、学生時代の獅童氏のうら話などに大変盛り上がりました。今回の熊本江古田会25周年企画につきまして芸術学部と本部校友会の多大な協力を得ましたことに心から感謝しております。ありがとうございました。

熊本江古田会 会長 奥村隆志



学部ニュース

去る3月25日に平成22年度卒業式が挙行されました。日本大学総長賞・優等賞・優秀賞、芸術学部長賞、芸術学部奨励賞など卒業生、大学院修了生に対する各賞の発表及び表彰がありました。

- 日本大学総長賞（学業部門）
- 映画学科 田中美帆
- 日本大学総長賞（学術・文化部門）
- 演劇学科 木原浩太
- 日本大学優秀賞（学術・文化部門）
- デザイン学科 深澤直子 長谷川香織 北山ちぐさ
- 日本大学優等賞（学業部門）
- 写真学科 中島ゆう子 大野深美 河野香織 中島明菜
- 映画学科 田中美帆 川口美樹 植田郁子 岡田洋奈
- 美術学科 酒井みのり 勝又秀美 古澤伸二 眞間 悠
- 音楽学科 横川千秋 西 彩乃 下山絵史 中村聡美
- 文芸学科 砂山紗矢佳 花田早耶佳 佐滝 忍 小黒貴之

- 演劇学科 伊藤百友加 ブリドカットセーラ恵美 寺本綾乃 伊藤ちさと
- 放送学科 大内 健 高田悠人 小林将大 橋本佳奈
- デザイン学科 島田 薫 山本莉紗 居山 翠 齋藤成美
- 日本大学奨励賞（学術・文化部門）
- 御永真幸（文芸学科3年）
- 清水恭子、正田呀佐、門馬聖龍（デザイン学科3年）
- 芸術学部長賞（学業部門）
- 写真学科 安東沙希 佐々木 龍 中津川瑛奈 柳岡創平 章 岱
- 映画学科 田中美帆 和田 彩 芳賀 俊 清水里子 李 瑛恩
- 美術学科 金勝由佳 石田浩美 岡田祐介 川越亜優美 中井伸太郎
- 音楽学科 佐々木正暁 青木友花 原久美子 臼田克巳 下山絵吏
- 文芸学科 小黒貴之 儀保佑輔

- 佐滝 忍 栗嶋岳大 佐藤豪晃
- 演劇学科 田路紅瑠美 齊藤千華 岡田奈津実 岡田麻里 寺本綾乃
- 放送学科 杉田亜矢 岡部菜穂子 江良総司 高田悠人 佐久間愛生
- デザイン学科 落合亜希レオノール 島田 薫 古川大地 飯塚 啓 金 鍾潤
- 芸術学部長賞（その他）
- 美術学科 大森拓弥
- 放送学科 瀬戸口将史
- 芸術学部奨励賞
- 写真学科 林 珍元
- 映画学科 神谷美里
- 美術学科 酒井みのり
- 音楽学科 齋藤優輝
- 文芸学科 福田浩子
- 演劇学科 齋藤陸未
- 放送学科 南部 望
- デザイン学科 佐藤 樹

学科ニュース

写真ブロック



●平成23年1月6・7日に宮城県高等学校文化部連盟写真専門部顧問

研修会を本学部で行いました。

- 「日本大学芸術学部写真学科卒業制作展」を平成23年2月18日～3月5日に本学部資料館(江古田校舎)で開催。初めての試みとしてオープニングレセプションを同所で開催をいたしました。
- キヤノンマーケティングジャパン

株式会社のご協力で「日本大学芸術学部写真学科学生選抜展」をオープンギャラリー（品川）：キヤノンスタワー 2F（平成23年2月19日～3月11日）で開催をいたしました。選抜学生：大野深美・中島ゆう子・中津川瑛奈・三倉類太・米良尚泰

●平成22年度をもちまして木村恵

一師と三浦澄雄師が定年でご退職されました。長い間ありがとうございました。これに伴いまして、本年度

から郡司秀明師、池田正一師、平間至師にご担当いただきます。

●本学教授の原正人師が膵臓癌のた

めご逝去されました。長い間にわたる授業・学科運営に対して感謝申し上げます、ご冥福をお祈り申し上げます。

映画ブロック



●平成 22 年度映画学科各賞が、次の卒業生の論文・計画・制作に授与されました。

☆第 38 回渡辺俊平記念賞

(脚本) 柏木浩輔

☆第 13 回答見有弘賞

(理評) 竹島尚志

☆第 4 回大竹徹賞

(脚本) 嘉戸雄太

☆第 4 回八木信忠賞

(録音) 中島裕介

☆第 35 回映画学科奨励賞

(理評) 原香織、(映像) 竹内隆志、

(脚本) 阿蘇品文、(監督) 鈴木祥、
(撮影) 三村公佑、(録音) 久保晴花、
(演技) 玉島吉茶

☆第 20 回映画学科選奨

(理評) 佐倉佳央理、(映像) 三浦渉、
(脚本) 仲原達彦、(監督) 西田友香、
(撮影) 末松祐紀、(録音) 八方麻実、
(演技) 松尾拓

☆第 18 回映画学科特別賞(フジフィルム提供)

(理評) 五十嵐小保理、(映像) 細村舞衣、
(脚本) 河原木咲、(監督) 八木順一朗、
(撮影) 伊丸岡 創、(録音) 河野梨沙、
(演技) 中山卓也

☆第 8 回東芝ライテック・アートライテック賞

(撮影) 森 想来

☆第 10 回映画学科コダック賞

(撮影) 巻田勇輔、武田浩明、荒木

宏美、秋戸香澄、駒井温子、浅川和之、田口綾乃

●映画学科で教鞭をとっていただいた、八木信忠講師(「録音」、内藤誠講師(「映画演出」、水川淳三講師(「映画演出」、波多野哲朗講師(「映像概論」)が退職されました。ごくろうさまでした。

●平成 23 年度より次の先生が新しく映画学科の講座を担当します。

玉木則順特任教授(担当「映画技術」、伊藤健人講師(平成 16 年度映画卒、担当「洋舞」、加田斎講師(担当「洋舞」、眞道正樹講師(担当「録音研究」、曾根幸子講師「映画特講」、宮本正樹講師(平成 9 年度映画卒、担当「映画演出」、山田均講師(担当「映画技術」、渡邊大輔講師(平成 15 年映画卒、担当「映画特講」)

美術ブロック



○平成 23 年 6 月 10 日(金)～7 月 31 日(日)

絵画コース版画専攻卒業生による展示
会場：星と森の詩美術館(新潟県十日町市)

○N + N 展 2011 練馬美術館

現任教員、旧教員、日藝コレクションから出展

2011 年 6 月 21 日(火)～7 月 3 日(日)

○第 62 回十日町市雪まつり 地元

新聞社賞受賞

今年で 7 回目の参加となる彫刻コース有志 27 名に写真学科の田中助教と学生 4 名が参加。例年よりも多い雪に恵まれ、「風神・雷神・七福神」をテーマに高さ 6m、横 12m の雪像を制作した。

音楽ブロック



●平成 22 年度 卒業論文要旨発表会
平成 23 年 3 月 23 日(水) 江古田

校舎・音楽小ホールに於いて、平成 22 年度卒業生の中より、卒業論文が優秀であった学生による卒業論文要旨発表会が開催されました。発表者は次の通りでした。

<音楽教育コース>

磯部瑛世、原田明日香、下山絵吏

<情報音楽コース>

吉田沙織、杉山晃一

●平成 22 年度 卒業演奏会

平成 23 年 5 月 7 日(土) 芸術学部音楽小ホールに於いて、平成 22 年度卒業生の中より、卒業演奏及び卒業作品で優秀な成績を修めた学生が出演する卒業演奏会が開催されました。出演者は次の通りで

した。

＜作曲コース＞

佐々木正暁

＜声楽コース＞

堤 千佳（ソプラノ）、

作田佳奈美（ソプラノ）、

青木友花（メゾソプラノ）

＜ピアノコース＞

横川千秋、荻野祐子、井上絢菜、中

村かおり、小川彰吾、藤山瑠衣、原

久美子

＜弦管打楽コース＞

川野里紗（フルート）、

相原 結（ホルン）、

渡辺美穂（ユーフォonium）、

亀井美香（トロンボーン）、

丸田和輝（バストロンボーン）、

齋藤康成（打楽器）、

白田克巳（トロンボーン）

●第81回 読売新聞主催新人演奏会

東京文化会館・大ホール

平成23年5月3日（火）

作品発表：佐々木正暁

Tb…亀井美香 Pf…藤山瑠衣

バストロンボーン独奏：丸田和輝

Pf…小川彰吾

5月4日（水）

ピアノ独奏：原 久美子

ソプラノ独唱：青木友花

Pf…中村かおり

●第12回日本ピアノ調律師協会

新人演奏会

平成23年4月30日（土）17:00 開演

東京文化会館・小ホール

ピアノ独奏…原 久美子

●第28回ヤマハ管楽器 新人演奏会

平成23年5月18日（水）

木管楽器部門 ヤマハホール

フルート独奏…川野里紗

平成23年5月19日（木）

金管楽器部門 ヤマハホール

トロンボーン独奏…白田克巳

●ムラマツフルートデビューリサイタル

日時未定

東京オペラシティ・リサイタルホール

フルート独奏…川野里紗

（小リサイタルの形で演奏します。）

●平成23年度 音楽学科夏期受験

準備講習会

平成23年7月26日（火）～29日（金）

に開催いたします。校友会員の皆様のお知り合いを、ぜひご紹介ください。

●平成22年度で退職なさった先生は次の通りです。

長い間、ありがとうございました。

新井 汎先生、五十嵐滋先生、児玉幸子先生、細田淳子先生、松村誠一郎先生

●今年度より次の先生が新たに講座を担当しております。

伊藤理恵先生（情報音楽研究）

加藤卓先生（情報音楽概論）

兼松幸市先生（情報音楽ゼミナール）

吉川洋太郎先生（情報音楽研究）

駒沢大介先生（情報音楽研究）

品川政治先生（クラリネット）

菅原 淳先生（打楽器）

鈴木涼子先生（音楽療法実習）

田中直人先生（情報音楽研究）

三戸勇気先生（情報音楽ゼミナール）

安野太郎先生（情報音楽演習）

湯浅 篤先生（情報音楽研究）

米本 実先生（情報音楽研究）

文芸ブロック



●小泉典子さんが第9回江古田文学賞を受賞

第9回「江古田文学賞」は、平成22年8月31日に応募を締め切り、約100篇の作品が集まりました。その中より14篇が2次審査を通過し、8篇が最終審査に残りました。10月23日、日本大学芸術学部江古田校舎にて行われた最終選考会にて『カランバウの首輪』『やすらぎの家』『鉄工場チャンネル』の3篇が最終

候補作となり、選考の末、小泉典子さんの（文芸学科3年）『鉄工場チャンネル』が「江古田文学賞」に選出されました。

●ノベル大賞佳作を受賞

（株）集英社コバルト編集部が主催するノベル大賞において、文芸学科3年生（ペンネーム・御永真幸、本名非公開）の応募作『ただここに降りしきるもの』が2010年度ノベル大賞佳作を受賞しました。同賞は集英社が刊行するライトノベル系文芸誌『Cobalt』及びコバルト文庫の読者を対象とした作品を公募する文学賞で、1983年の募集開始以来、唯川恵、藤本ひとみ、山本文緒といったライトノベルだけではなく、一般

小説の分野においても現在活躍している作家を多数輩出している実績ある文学賞です。今回656編の応募作の中から最終候補作6篇に選出、選考委員の大岡 玲、桑原水菜、橋本紡、三浦しをん、吉田玲子（五十音順）各氏による厳正な選考の結果、見事に佳作（656人中2番）入賞を果たしました。

●第10回湯河原文学賞を受賞

湯河原文学賞実行委員会が主催する第10回湯河原文学賞小説の部において、細井麻奈美さん（文芸学科2年）の「カメラ」が最優秀賞を受賞しました。作品は、「祥伝社 小説NON 6月号（5月21日発売）」に掲載されます。

演劇ブロック



◇前期実習発表スケジュール

平成23年度も所沢校舎・江古田校舎におきまして、さまざまな実習発表及び卒業制作公演を実施いたします。校友の皆様方のご来場をお待ちしております。尚、発表に関しましては、インターネットからの事前予約が必要です。詳しい予約スケジュール及び予約方法に関しましては、演劇学科ホームページ

<http://theatre.art.nihon-u.ac.jp/>でご確認ください。
尚、後期発表スケジュールに関しましては、次号にてお知らせさせていただきます。
※タイトル及び詳しい内容は演劇学科ホームページでご確認ください。

※○＝江古田校舎 ●＝所沢校舎

○舞台総合実習ⅢA（演劇）

・演出：加藤直

・7月1日（金）～3日（日）

・江古田校舎・中ホール

○舞台総合実習ⅢC（日舞）

・創舞指導：花柳基

・7月9日（土）

・江古田校舎・中ホール

●舞台総合実習ⅠA（演劇）

・演出：伊藤大

・7月14日（木）～16日（土）

・所沢校舎 アートセンター・ブラックボックス

○舞台総合実習ⅤD（洋舞）

・7月15日（金）～16日（土）

・創舞指導：范旅

・江古田校舎・小ホール

○卒業制作中間発表（日舞）

・7月23日（土）

・江古田校舎・中ホール

●舞台総合実習ⅠB（演劇）

・演出：鶴澤秀行

・8月4日（木）～8月6日（土）

・所沢校舎 アートセンター・ブラックボックス

放送ブロック



■「放送学科周年記念・卒業生の集い」のご報告

昨年11月21日に江古田校舎大ホールにて「放送学科周年記念・卒業生の集い」が開催され、多くの卒業生にご来場いただきました。集いは、卒業生のフジテレビアナウンサー塚越孝さんとリポーター菊田あや子さんの司会で進行し、旧校舎の外観、スタジオ施設、授業風景が並んだ懐かしのスライドショーや過去の実習作品をダイジェストで紹介し、その作品に携わった卒業生の近況を伺うなどしました。閉会後も新しいテレビスタジオ、録音スタジオ、編集室等の設備をご覧いただきました。

歴代の卒業生が一堂に会した集いは、学生時代を懐かしむ和やかな雰

囲気の中、無事終了しました。卒業生のみなさまには、会の開催にあたり、同世代の方へのお声かけなど、いろいろとご協力頂きましたこと、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

■第3回「国際ドラマフェスティバル in EKODA」のご報告

1月22日、江古田校舎E207教室にて、第3回「国際ドラマフェスティバル in EKODA」（主催／放送学科、共催／国際ドラマフェスティバル in TOKYO 実行委員会）が開催されました。

第一部では、「国際ドラマフェスティバル in TOKYO 2010」で連続ドラマ優秀賞の『mother』から次屋尚プロデューサーと脚本家の坂元裕二さんを迎え、ドラマへの想いを語っていただきました。第二部では、ニッポン放送会長の重村一さんとNHKエンタープライズの河村正一さんを迎え、日本のドラマを海外に発信する戦略とその展望について、そして

第三部では、連続ドラマグランプリ獲得の『JIN -仁-』から石丸彰彦プロデューサーと演出担当の平川雄一朗さんを迎え、キャスティングや演出の方法などをうかがいました。入場制限がかかるほどの来場者が訪れ、会場は終日熱気に包まれました。

■「脚本展」のご報告

1月21日から25日、放送学科の第2テレビスタジオにおいて「脚本展」（主催／放送学科、共催／社団法人日本放送作家協会、日本脚本アーカイブズ）が開催されました。大河ドラマ・時代劇、刑事ドラマ、恋愛ドラマ、学園ドラマ、特撮ドラマ、アニメといった各分野の歴史的な名作から最新作の脚本のほか、歌番組やバラエティ番組、情報・ドキュメンタリー番組の構成台本が展示されました。

4日間の期間中、特に22日は「国際ドラマフェスティバル in EKODA」が同時開催とあって、多くの来場者で賑わいました。

■「糸井重里ワークショップ」のご報告

3月5日に放送学科主催、ほぼ日刊イトイ新聞共催の「素直であるためのワークショップ」が江古田校舎大ホールにて開催されました。多数の応募から抽選で選ばれた参加者が、知らない者同士でペアを組み、お互いにインタビューをして、なかよく時間を過ごしながら相手を知り、自分自身を引き出すという、糸井さんの独特なアイデアの下、ワークショップが進められました。

長丁場のワークショップとなりましたが、大盛況のうちに終了しました。当日の様子は、ほぼ日のHPにテキスト中継の記録として紹介されています。(1101.com)

*放送学科主催の行事の様子は、学科HP (nua-broadcast.net) でご覧いただけます。

■春風亭一之輔さんが文化庁芸術祭賞新人賞を受賞

放送学科卒業生の春風亭一之輔さん(平成12年度卒・本名:川上隼一)が、「まちのゆめ・まちのころ・まちのことは」落語会における古典落語「茶の湯」の話芸を高く評価され、平成22年度第65回文化庁芸術祭賞の新人賞(関東参加公演の部)を受賞しました。一之輔さんは、古典落語「初天神」で平成22年度NHK新人芸芸大賞落語部門グランプリも受賞しており、同年度に両方を受賞するという史上初の快挙を成し遂げました。その話芸を堪能したい方は、内幸町ホールで月一回開催している自主公演「真一文字の会」へどうぞ(ichinosuke-en.com)。

また、JFN系列全国FM局でオンエアされている『SUNDAY FLICKERS』(毎週日曜日朝6時~8時30分)では、メインパーソナリティとして活躍中です。

■頃安祐良さんが第14回水戸短編映像祭で準グランプリに

未来の映画監督の発掘と育成を目的とする第14回水戸短編映像祭のコンペティション部門(応募総数306作品)において、放送学科卒業生の頃安祐良さん(平成18年度卒)の『マイ・サンシャイン』が準グランプリに輝きました。頃安さんは、2008年に同映像祭に出品した『シュナイダー』でも入選しており、今回2度目の受賞となりました。

■第23回「ACC学生CMコンクール」、第7回「公共広告CM学生賞」など受賞の報告

CMの質的向上と人材の育成を目的に、全国の学生を対象として実施されているACC学生CMコンクールのラジオCM部門で、小島和俊さん(3年)と新倉沙織さん(3年)が、応募総数1,032作品の中からそれぞれ大賞と奨励賞を獲得しました。

また、広告制作を通して、公共広告への理解を深め、社会に主体的に関わる「公」の意識を育むことを目的に開催されている第7回「公共広告CM学生賞」で福井裕子さん(4年)が一員のグループ制作による作品「音漏れによる影響」がBS民放賞を受賞しました。同コンテストでは、大内健さん(平成22年度卒)が率いる平成22年度CMⅢ(指導:岩橋正彦先生)のグループが制作した作品「海」もコピー賞を受賞しました。

この他に、第4回「SBSラジオCMコンテスト」で斎藤はるかさん(3年)が協賛社賞(天神屋)、FM秋田「輝け!コピーライター大賞2011」で吉岡利浩さん(3年)が入選、第7回「愛するあなたへの悪口コンテスト」で中島瞳さん(3年)、金澤香林さん(3年)の2名が入賞するなど、各企業・団体が主催する広告やコピーのコンテストで現役生た

ちが活躍しています。

■「SFC Radio Navigator Contest 2010」で1位を獲得

昨年10月17日に開催されたラジオナビゲーターに挑戦意欲を持つ学生のためのコンテスト「SFC Radio Navigator Contest 2010」で、黒江美咲さん(3年)が1位に選ばれました。多数の応募の中から厳しい選考を経て、ファイナル審査で発表したセルフプロデュース番組「Bon Voyage!!」が高く評価されました。このコンテストの出身者には、J-WAVEなどで活躍する秀島史香さんがいます。

■三重県鈴鹿市のコミュニティFMでラジオ番組を放送中

昨年から、三重県鈴鹿市のコミュニティFM「Suzuka Voice FM」(suzuka-voice.fm)で、茅原良平助教の指導の下、ラジオ制作の学生たちの有志が集まり、毎週日曜日の夕方5時から5時半で番組を放送しています。これまで演劇学科や音楽学科からの協力を仰ぎながら数番組を制作してきましたが、この5月から、新番組「NUあーと魂」が始まりました。放送学科の学生が、日芸の8学科で活躍する様々な学生を取り上げ紹介するという番組です。番組をお聴きになれる地域にお住まいの方は、是非聴いてみて下さい。

■上原先生が定年退職を迎えられました。

永年に亘り放送学科の専任教員としてご活躍された上原清先生が、この2月に定年退職を迎えられました。マスコミ分野を専門にされ、テレビ番組のアーカイブにご尽力いただきました。放送学科の貴重な映像資料として、これからも大切に活用させていただきます。

今年度からは放送学科の非常勤講師として、引き続き「テレビ史」をご担当いただいています。これからもどうぞよろしくお願いします。

デザインブロック



●平成 22 年度卒業制作選抜展・大学院造形芸術専攻デザイン修了展開催

去る 2 月 11 日～27 日の間、平成 22 年度日本大学芸術学部デザイン学科卒業制作選抜展ならびに大学院造形芸術専攻デザインの修了研究の作品展が江古田校舎の大ホール、ギャラリー棟、デザイン学科全アトリエにて開催されました。

今回は新装の江古田キャンパスのお披露目の意味もあり、3 コース同時にゆったりと鑑賞できるような展示計画にしたので、各方面からも大変高い評価を頂き、のべ 1300 名余の来場者をお迎えしました。会場で作品集を無料配布すると共に、ジャパン・デザイン・ネットのウェブサイトにも優秀作品が多数紹介されました。
(<http://www.japandesign.ne.jp>)

●江古田校舎 A & D ギャラリーの展示計画が決定！

美術学科とデザイン学科が運営をする、A & D ギャラリーの平成 23 年度前期分の展示計画が決まりました。A & D ギャラリーは江古田校舎ギャラリー棟 1 階（中央守衛所の左隣です）にあり、半期ごとに展示の申請を募ります。基本的に学科や学部の行事が優先になりますが、在学生や若手教員の作品や研究成果発表の場として有意義に活用される事が期待されています。応募には専任教員の推薦が必要になりますが、卒業生の利用も可能ですので、気軽にお立ち寄りください。

* 4 月 5 日（火）～28 日（木）…『ス

イス・ベルン自然史博物館のポスター展～アートディレクター／クロード・クーンの世界～』

* 5 月 9 日（月）～28 日（土）…『Navel Garden』（江古田解体材を再生するアートワークショップ／インスタレーション）

* 5 月 30 日（月）～6 月 18 日（土）…『CD 卒業生 2 人展』

* 6 月 20 日（月）～30 日（木）『A Boy in My Mind』（幼少期における遊びと生活に関わる原体験からの考察）

●川原司郎先生が定年を迎えられました

デザイン学科 CD コースの専任～非常勤講師として「コミュニケーションデザイン史Ⅰ、Ⅱ」などをご担当頂きました川原司郎先生が定年を迎えられました。先生には、(株)電通に勤務されていた時代から非常勤講師をお願いし、後には専任教員としても本当に長い間学科の運営や教育にご尽力を頂きました。まだ、大学院での授業は引き続き受け持たれますが、先生、本当にありがとうございます。これからもますますお元気でいらしてください。

●在学生の受賞多数！

ここに挙げました受賞以外にも多数のコンペで健闘しています。OB の皆様の暖かいご支援を宜しく願います。

* 清水恭子（CD4 年）『第 23 回 ACC 学生 CM コンクール』TVCM 部門で応募総数 939 作品の中から大賞を受賞。同じく正田冴佳（CD4 年）も金賞を受賞し上位 2 位を日芸が独占いたしました。

* 小林大介（CD4 年）大阪市主催『人権啓発ポスターデザイン・キャッチコピー募集』事業のキャッチコピー部門で優秀賞を受賞。応募総

数 895 作品の中から、高齢者福祉月間のコピーとして『シワの数だけ、幸せを。』で選ばれました。

* 中川美沙（CD3 年）『伊豆諸島小笠原諸島観光ポスターコンペ』にて佳作入賞。

* 金男起（大学院修士 2 年）『所沢航空発祥 100 周年記念事業イメージポスターコンペ』にてグランプリ受賞。同じく、大石茉莉奈（CD4 年）、市毛雪絵（CD3 年）も優秀賞に選ばれました。グランプリ作品は所沢市内を中心とした西武鉄道各駅や商店街、大型店舗に掲示されています。

●在学生の活躍状況

* CD と ID の 3 年生有志が秩父地域の食品製造団体と連携して「ちちぶ白いも」を使ったお菓子の新パッケージを提案しました。キャラクターやロゴマークの開発とラベルデザインを行い、都内のナチュラルローソンや埼玉県内のイオン各店において、新パッケージの商品が販売開始されました。

* 建築デザインコース 4 年生有志により実寸制作された市中の山居『縁』が、フォーシーズンズ志木 8 階ふれあいプラザにて開催された（社）埼玉県建築士会主催の建築展『2010 夢・デザインの力』展に 2010 年 12 月 4 日～5 日迄展示されました。

* 長澤達也（AD4 年）、竹村純（ID4 年）、井上駿希（ID4 年）の共同作品が和光チョコレートサロン 2011 年バレンタインデーディスプレイとして実現されました。総合演習の授業を通じて、和光チョコレートサロンのためにデザインした作品『Butterfly Effect』が、和光デザイン広報部の武蔵淳氏のアートディレクションのもと、1 月 21 日～2 月 14 日まで展示されました。

探しています!

日本大学芸術学部校友会からのお願いです

日本大学芸術学部校友会では、今年の"学部祭"に、母校と校友の懐かしい思い出の写真や印刷物などを、校友会室に展示したいと計画しております。

つきましては、現在の新校舎以前の江古田旧校舎(概ね 昭和55年・1980年 以前の写真)や、大・中・小講堂、学食棟・教職員棟などが写ったものや、文化部・運動部・同好会での活動中の写真を探しております。また、その当時のキャンパスを想起させる印刷物や出版物も歓迎致します。

※特に写真の場合は、個人の記念写真とか集合写真よりは、背景に「校舎」あるいは「教室」や「部室」などが視認できるものを希望します。

なにとぞ趣旨をご理解の上、ご協力 ご配慮くださいますよう 重ねてお願い致します。

■応募締切：平成23年(2011年)6月30日まで

応募方法：①住所②氏名③電話番号④卒業年度⑤卒業学科⑥写真添付点数を明記の上、下記日本大学芸術学部校友会室宛までご郵送下さい。

〒176-8525 東京都練馬区旭丘2-42-1 日本大学芸術学部校友会事務局 行

※尚 ご郵送いただいた写真や資料については、後日返送致します。また、のちに これらをまとめて上梓する予定もございますので、あらかじめ お含みおください。



校友会だより

校友会のメールアドレスが変更になりました。

旧 ekoda.koyu@nichigei.nu



新 ekoda.koyu@gmail.com

編 集 後 記

西武鉄道江古田駅の駅改良工事
もいよいよ完成間近となり、見違えるほどきれいで機能的になった新しい駅舎には、ただ目を見張るばかりです。リニューアルを終えた江古田校舎とあわせ、江古田の街の風景は、少しずつ、でも確実に変化しています。(谷村)

8つのアート1つのハート

N O U

Nihon University College of Art

Art

日本大学芸術学部校友会報・第86号

2011年春号 ● 平成23年5月発行 ●

- 編集人 会報編集委員会
- 発行人 綾部東洋子
- 広報担当 鈴木孝史 皆川孝一 鞍掛純一
今泉久 青木敬士 小林直弥
金龍郎 木村政司

- 発行所 日本大学芸術学部校友会
東京都練馬区旭丘2-42-1
日本大学芸術学部内
電話 (03) 3554-5363
事務担当 北島 留美子

- 印刷所 江戸クリエート株式会社
東京都文京区本郷3-40-10
三翔ビル本郷
電話 03-3814-1225

非売品

不許可転載

- 表紙 平成22年度写真学科卒業制作
中島ゆう子
『蓮花』

8つのアート1つのハート

日本大学藝術学部

Photography/Cinema/FineArts/Music/LiteraryArts/Theatre/Broadcasting/Design

◆ 大学 院 芸 術 学 研 究 科 ◆

◇博士前期課程／文芸学専攻／映像芸術専攻／造形芸術専攻／音楽芸術専攻／舞台芸術専攻

◇博士後期課程／芸術専攻

写真



映画



美術



音楽



文芸



演劇



放送



デザイン



日藝は創設90周年の
芸術総合学部です

熱気・やる気・元気



江古田校舎

海の日はおオープンキャンパスへ行こう!

OPEN CAMPUS

7.18 [月/祝] 10:00~16:00

学部紹介／入試概要紹介／学科企画／国語・英語の勉強法／
個別相談／在学生による何でも相談 他
美術学科・デザイン学科では作品を持参した方にアドバイスいたします

江古田校舎

進学フェア

6.5 [日] 10:00~16:00

予約不要・入退場自由
学部紹介／入試概要紹介／各種資料配布 他
美術学科・デザイン学科では作品を持参した方にアドバイスいたします

江古田校舎

進学フェア

11.3 [木/祝]・5 [土]

10:00~16:00 予約不要・入退場自由
学部紹介／入試概要紹介／各種資料配布／個別相談 他
美術学科・デザイン学科では作品を持参した方にアドバイスいたします
11月3～5日に芸術祭を実施していますので、学生主催のイベントや
キャンパスの雰囲気もご覧いただけます

N O U

Nihon University College of Art

A r t

<http://www.art.nihon-u.ac.jp/>

■ 江古田校舎 練馬区旭丘2-42-1 TEL.03-5995-8282 ■ 所沢校舎 所沢市中富南4-21 TEL.04-2993-2212